

# みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

## 人になれ 奉仕せよ

聖句：いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。(テサロニケの信徒への手紙 I 5:16~18)

保育目標：0歳児 ・周りの友だちや保育者との関わりを楽しむ。  
 1歳児 ・神さまがくださったたくさんの恵みを味わって喜ぶ。  
 2歳児 ・自由に自分を表現し、周りに受けとめられて過ごす。神さまの恵みを味わって感謝する。  
 3歳児 ・自分の思いを友だちや保育者に共感してもらい、自分で折り合いをつける経験をする。  
 4歳児 ・自分が感じて想像したことを工夫して思ったように表現する。神さまの恵みを感謝する。  
 5歳児 ・友だちと相談することやアイデアを出し合うことで、思いの違いを調整して遊ぶ。神さまからの恵みを感謝して、周りの人たちと分かち合う。

10月の半ばまで「暑い暑い」と言っていたのに、急に冬がやってきたような寒さに見舞われました。景色も気候も気持ちよい「秋」を満喫したいところですが、今後はどうなるのでしょうか？短くなりそうですが、葉の色づき、心地よい空気・・・子どもたちに「豊かな秋」を味わってほしいです。

保育の中でよく見かける光景ですが、こどもの小さな「やってみる！」の姿が目と心に留まりました。

乳児クラスの着替えの場面。はと組の子どもたちが自分でズボンをはこうとしていました。「自分でやる！」「やりたい！」「やれる！」という思いで、楽しげにズボンと格闘していました。両足が片足分に入ってしまったたり、ズボンが裏返ったり・・・。ズボンが裏返ってしまったAちゃんは「んん！」と声を上げ、イライラを見せました。それをゆったりと見守る保育者が笑顔で「ひっくり返っちゃったね～」と言いながら元に戻してあげると、またズボンとの格闘を始めます。途中で足がひっかかり、進まなくなったBちゃんは、横を見ると隣で同じく足が進まなくなっているCちゃんがいて、顔を見合わせ「同じだね～」と言わんばかりにグラグラと笑い合っています。ズボンをはき終えた3人は「できた！」と言う表情で走って遊びに行きました。大人がやってしまえば30秒もかからない出来事を、5分くらいかけていた3人でした。

また、こんな場面もありました。7個の箱を懸命にセロテープで貼り付けていた年少組のD君が「できた！」と持ち上げると、片面だけを貼っていたので崩れてしまいました。「ワーン」と大声を出して怒り、泣いています。傍でじっと見ていたE君が「壊れちゃったんだね」と言うとD君の涙が止まり、「頑張ってたもんね。悲しいよね」と声をかけた保育者に助けられながら修理を始めました。時間をかけ、懸命にやっていたからこそ悔しい、腹立たしいD君の気持ちがよくわかります。

日常のよくある風景なのですが、「ちゃんと失敗できる」っていいな、と私は思いました。失敗はダメな事ではないのです。失敗するけれど、いざとなったら一緒に考え、助けて貰える眼差しの中で、叱責されたり、からかわれたりせず、「何とかしよう」とやり直せる時間と空間が保障されている安心感。また、保育者だけでなく友だちも含めて「気にかけてくれる人がいる」「ひとりぼっちにされていない」と思えることは心強いことでしょう。

大人は時に「やってみよう」とする子どもの思い、実はできる子どもの力を待つことが出来ず、「子どもが困らないように」「時間がかからないように」との理由から計画・準備をして整えたり、答えや方法に気付くように仕掛けることがあります。時には焦りのあまり大人がやってしまう事もありますね。私は「これって本当の子どものためになるのかな？」と考えてしまうのです。(もちろん忙しい時間の中では難しいことがある事は重々承知です！大人の都合もありますよね！)

その人なりに一生懸命に取り組む姿を「頑張ってるね」という思いをかけて見つめ、叶うよう願いながら『待つ』事は大切ではないでしょうか。「安心できる環境」が土台にあって、その中で子どもが失敗したり、困ったり、もがいたりできることは必要な体験だと思います。なぜならその積み重ねの先には必ず小さな成功や満足感、学びに出合えるからです。

日常の保育の中で「わくわくする」「集中する」「夢中になる」面白さ、「悔しい」「困った」「迷う」困惑にたくさん心を動かしながら、子どもが「自分らしさ」を見つけ、それぞれが大切にされるべき存在なのだと感じながらこれからも成長して欲しいと切に願います。

11月は収穫感謝礼拝があります。神さまからの恵みを感じ、感謝できる時となりますように。そして大きくなろうとしている子どもたち一人一人の歩みを神様が守ってくださいますように。

主任 藤肥 礼子